

(トップページ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/> )

(MENAランキングシリーズ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/MENAranking.html> )

マイライブラリー:0246

(注)本稿は 2012 年 10 月 27 日から 11 月 7 日まで 5 回にわたり「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2012.11.8  
前田 高行

**ますます悪くなるアラブの男女格差(日本も同レベル!):2012年版世界男女格差報告**  
(MENA なんでもランキング・シリーズ その8)

目次	頁
1. 「世界男女格差報告2012」について	2
2. 比較対象される分野とその内容	2
3. 指数化の方法と順位付け	2
4. MENA の平均世界順位は 118 位、日本も 135 カ国中 101 位	3
5. 分野別順位	3
6. 2008～2012年の総合ランクの推移	5

中東北アフリカ諸国は英語の Middle East & North Africa の頭文字をとって MENA と呼ばれています。MENA 各国をいろいろなデータで比較しようと言うのがこの「MENA なんでもランキング・シリーズ」です。「MENA」は日頃なじみの薄い言葉ですが、国ごとの比較を通してその実態を理解していただければ幸いです。なお MENA の対象国は文献によって多少異なりますが、本シリーズでは下記の 19 の国と 1 機関(パレスチナ)を取り扱います。(アルファベット順)

アルジェリア、バハレーン、エジプト、イラン、イラク、イスラエル、ヨルダン、クウェイト、レバノン、リビア、モロッコ、オマーン、パレスチナ自治政府、カタール、サウジアラビア、シリア、チュニジア、トルコ、UAE(アラブ首長国連邦)、イエメン、

これら 19 カ国・1 機関をおおまかに分類すると、宗教的にはイスラエル(ユダヤ教)を除き、他は全てイスラム教国家であり OIC(イスラム諸国会議機構)加盟国です。なおその中でイラン、イラクはシーア派が政権政党ですが、その他の多くはスンニ派の政権国家です。また民族的にはイスラエル(ユダヤ人)、イラン(ペルシャ人)、トルコ(トルコ人)以外の国々はアラブ人の国家であり、それらの国々はアラブ連盟(Arab League)に加盟しています。つまり MENA はイスラム教スンニ派でアラブ民族の国家が多数を占める国家群と言えます。

第8回のランキングは世界経済フォーラム(World Economic Forum, WEF)が行った「世界男女格差報告2012(The Global Gender Gap Report 2012)」から MENA 諸国をとりあげて比較しました。

### 1. 「世界男女格差報告2012」について

「世界男女格差報告2012(The Global Gender Gap Report 2012)」(以下「2012年版報告書」)を  
発表した「世界経済フォーラム」(World Economic Forum, WEF)は、スイスのジュネーブに本部を置く  
非営利団体であり、毎冬スイスのダボスで行われる「ダボス会議」の主催者としてよく知られてい  
る。

「2012年版報告書」は世界135カ国を対象に経済、教育、健康、政治の4つの分野について、世  
界或いは各国の公的機関が公表する男女別のデータに基づき、それぞれの分野の男女間の格差  
を指数化し順位付けを行ったものである。

\* WEF ホームページ: <http://www.weforum.org/videos/global-gender-gap-report-2012>

### 2. 比較対象される分野とその内容

対象とされるのは以下の4つの分野であり、各分野にはそれぞれ二つ乃至五つの比較項目があ  
る。

1. 経済参画分野: 経済活動への参加度及び参画の機会(Opportunity)に関する男女格差  
比較項目: (1) 労働参加比率、(2) 同一労働賃金格差、(3) 平均所得格差、  
(4) 幹部職比率、(5) 専門・技術職比率
2. 教育分野: 教育の機会に関する男女格差  
比較項目: (1) 識字率、(2) 初等教育就学率、(3) 中等教育就学率、(4) 高等教育就学率
3. 健康・寿命分野: 健康と寿命に関する男女格差  
比較項目: (1) 新生児男女比率、(2) 平均寿命
4. 政治参画分野: 政治参画の度合に関する男女格差  
比較項目: (1) 女性議員比率、(2) 女性閣僚比率、  
(3) 過去50年間の女性元首(首相等)在任期間

### 3. 指数化の方法と順位付け

135カ国について上記四つの分野の各比較項目に関する男女それぞれの数値或いは比率のデ  
ータを抽出し、この男女のデータについて男性を1とした場合の女性の指数を算定する(最大値は1  
とする)。この指数の意味は、指数1の場合男女が完全に平等であることを意味しており、指数が低  
くなればなるほど男女の格差が大きいことを示している。

各比較項目の指数を加重平均したものを、その分野の指数とする。最後に4つの分野の指数を  
加重平均したものがその国の格差指数であり、135カ国の指数を上位から順に総合順位を付ける

のである。

#### **4. MENA の平均世界順位は 118 位、日本も 135 力国中 101 位**

(表[http://members3.jcom.home.ne.jp/areha\\_kazuya/8-T01rev.pdf](http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/8-T01rev.pdf) 参照)

「2012年版報告書」は、上記の方法により135カ国のそれぞれの総合指数を算出し順位付けを行ったものである。このうち MENA (MENA の定義は冒頭参照) は16カ国が順位付けの対象となっている。今回調査対象とならなかったのはイラク、リビア、チュニジア、パレスチナ自治政府の3ヶ国1機関である。チュニジアは昨年まで評価対象国であったが、今回はランク付けされていない。

MENA 諸国の世界ランクの特徴はイスラエルを除く16カ国が全て100位以下と言う極めて低いレベルにあることである。MENA トップはイスラエルであり、同国の世界ランクは56位である。イスラエルに続くのは UAE(世界ランク107位)、第3位はクウェイト(世界ランク109位)である。第4位以下は、バハレーン(同111位)、カタール(同115位)、アルジェリア(同120位)、ヨルダン(同121位)、レバノン(同122位)と続き、これら8カ国が MENA の上位を占めている。

イスラエル以外の MENA 各国の世界ランクは殆ど差が無い。レバノンに続くのがトルコ(世界順位124位)、オマーン(125位)、エジプト(同126位)、イラン(同127位)、モロッコ(同129位)、サウジアラビア(同131位)、シリア(同132位)である。イラクなど評価対象外の国を除けば MENA 最下位はイエメン(世界順位135位)であるが、同国は世界最下位でもある。MENA の世界平均順位は118位であり、イスラエルを除く MENA 諸国は男女格差が大きく、男女平等が遅れた地域と言えよう。

ちなみに世界1位はアイスランドであり、日本は101位である。日本は米国(22位)はもとより中国(69位)よりもかなり低い。アジア諸国ではフィリピンがベストテン(8位)に入っており、シンガポール(55位)、タイ(65位)、ベトナム(66位)などが世界平均を上回っている。日本は中国、インドネシア(97位)よりも下位であり、日本より世界順位が低いのはインド、韓国など極く少数の国々である。日本は男女格差が非常に大きな国であると評価されている。

#### **5. 分野別順位**

(表[http://members3.jcom.home.ne.jp/areha\\_kazuya/8-T03.pdf](http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/8-T03.pdf)参照)

経済、教育、健康・寿命及び政治の四分野ごとに見た MENA 16カ国の順位は以下のとおりである。

##### **(1) 経済分野の男女格差**

経済分野の男女格差が MENA で最も小さいのはイスラエルで、同国の世界順位は53位である。第2位以下はクウェイト(世界順位106位)、カタール(同107位)、バハレーン(同118位)と GCC 諸国が続いている。総合順位107位の UAE はこの分野では122位である。経済分野の MENA の平均世界順位は120位となっており、総合の平均順位118位より少し劣っている。MENA では経済分野における男女格差が大きいと言えよう。

この分野における日本の世界順位は102位である。詳しい内容を見ると女性管理職のランクは世界106位であり、専門技術職の世界ランク73位に比べ女性の昇進の壁が厚いようである。また賃金の男女格差は世界平均を大きく下回る97位に留まっている。

## (2) 教育分野の男女格差

教育分野の MENA 上位には UAE(世界1位)、カタール(世界36位)、バハレーン(同47位)、クウェイト(同60位)と GCC 諸国が名を連ねており、これら4カ国は世界の上位グループに入っている。これに続くのはイスラエル(同80位)、ヨルダン(同82位)、レバノン(同86位)、サウジアラビア(同91位)、オマーン(同96位)であり、これら上位11カ国が世界100位以内に入っている。世界順位100位以下の国はイラン(101位)、アルジェリア(103位)、シリア(107位)、トルコ(108位)、エジプト(110位)、モロッコ(115位)及びイエメン(133位)であり、これらの国は女性教育への取り組みが不足しているようである。

この分野の MENA の平均世界順位は85位である。総合順位では世界100位以内がイスラエル1国であることに比べ、この分野では UAE の1位を始め100位以内が半数の9カ国に達し MENA 諸国の教育分野における男女格差は比較的小さいと言える。特に湾岸産油国は MENA 諸国の中でも女性教育が普及していることがわかる。

日本は世界81位である。因みにこの分野では UAE の他米国等20カ国近くが1位を占めている。これは文盲率に男女の差が無く或いは高等教育進学率等で女性が男性を上回るケースの場合スコアが1となり同率1位となるためである。日本は文盲率、初等・中等教育は男女に差が無いが、高等教育の男子進学率が女子をわずかに上回っているため平均スコアは0.987となっている。これにより日本の世界順位は81位とされ、この分野ではごくわずかなスコアの差で順位が大きく上下することがわかる。

## (3)健康・寿命分野の男女格差

MENA 諸国のこの分野における特徴は男女格差が比較的小さいことである。特に国別で見た場合レバノンが世界1位であり、指数 0.9796 は男女間で殆ど格差が無いことを示している。この分野は世界的に見ても男女の格差が少なくフィンランド、フィリピン、ウガンダ、スリ・ランカ、ブラジルなど135カ国中の4分の1近い32カ国が同一指数で世界1位とされている。但し指数はあくまで男女の格差を示すものであって、先進国フィンランドと開発途上国ウガンダの健康・寿命のレベルが同じことを意味していないことに注意すべきであろう。

例えばカタール(世界127位、指数 0.9522)、UAE・クウェイト(同111位、0.9612)に対して、イエメンが83位(指数 0.9727)であることに見られるように、医療福祉制度の充実した湾岸産油国が総合評価で世界最下位のイエメンよりも男女格差が大きいという意外な結果を示している。これはおそらく湾岸産油国では制度が男女の格差をはらんだまま発達しているのに対し、イエメンでは制度が未発達のため男女の格差がかえって小さいという逆説的な状況を示しているのかもしれない。

日本は指数が 0.9791 で世界ランクは34位である。平均寿命は女性が男性を上回るため指数は 1.00 となるが、新生児の男女比率は男性が女性を上回っているため指数は 0.94 となっている。この分野では二つの項目(新生児の男女比率及び男女の平均寿命)によって指数が算出されているが、135カ国全ての指数が 0.96 を上回っており、経済(上記1)、教育(上記2)及び政治(下記4)など他の分野に比べて殆ど格差が無いのが特徴である。

#### (4)政治分野の男女格差

この分野は世界各国の政治体制の違いに左右される面が大きい。またこの分野はトップのアイスランドの指標が 0.7325、米国が 0.1557 であるなど上記の健康・寿命指標に比べて世界的に指標値が低いとともに国際的な格差が大きい。MENA 各国の指標もトップのイスラエルですら 0.1559 にとどまり、多くの国の指標は 0.1 以下である。因みに日本は 0.0705(世界110位)、中国は 0.1496(同58位)である。

MENA 諸国間の比較で男女格差が少ないと評価されているのは、上記のイスラエル(世界54位)のほかアルジェリア(同57位)、UAE(同81位)、トルコ(同98位)などであり、反対に格差が大きいのはサウジアラビア、カタール(ともに133位)、レバノン(131位)、クウェイト(130位)、オマーン(129位)、イエメン(128位)、イラン(126位)などであり、いずれも世界135か国中の最低レベルである。GCC6 カ国の中で比較的高い評価を受けているのは UAE のみであり、他は男女格差が大きい。特にサウジアラビア及びカタールの指標は 0.0000 であり、女性の政治分野への進出がまったく閉ざされているとの厳しい評価がなされている。

政治の男女格差は女性の国会議員、閣僚及び過去50年間の女性元首(首相等)の在任期間でランク付けされているため全体的に各国ともスコアが低く、また同じ先進国でもヨーロッパに比べ日米のランクが低い結果となっている。

## 6. 2008～2012年の総合ランクの推移

(表[http://members3.jcom.home.ne.jp/areha\\_kazuya/8-T02.pdf](http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/8-T02.pdf)参照)

全世界の調査対象国数は2008年の130カ国が2009及び2010年は134カ国そして2011年及び2012年には135カ国へと漸増傾向にある。この間の MENA 各国の順位の推移を追うと概略以下の通りである。(調査対象国数が増加しているため、各年の順位をそのまま比較することに若干の問題はあるが、増加数が小さいのでここでは単純比較とする。)

### (1) MENA ではイスラエルがダントツ、最下位が続くサウジとイエメン

5カ年を通じてイスラエルは常に MENA 1位であった。2位は2008年及び2009年はクウェイトであったが、2010年以降は UAE である。UAE は2008年の5位から2009年4位、そして2010年以降2位に上昇している。これら3カ国は MENA 諸国の中で男女格差が少ない国であった。但しイスラエルを除く MENA 諸国は過去5年間を通じていずれも100位以下であり、世界水準から見ると男女格差が大きい。

バハレーンは10位(08年)→6位(09年)→5位(10年、11年)→4位(12年)と MENA における地位を毎年上げている。これとは逆にオマーンは8位(08年)→9位(09年)→10位(10年)→14位(11年)→10位(12年)であり、今回は少し改善されたものの過去4年間男女格差が広がる傾向にあった。イエメン及びサウジアラビアは5年間を通じて常に MENA 最下位或いはそれに次ぐ順位に留まっている。

## (2)MENA も日本も世界順位は毎年悪化の一途

MENA の世界平均順位を見ると、2008年の112位から09年116位と連続して下落し、その後2010年115位、2011年116位と停滞したあと、2012年には118位に下がっており長期的な悪化傾向が見られる。指数の平均値は0.5997(08年)→0.5999(09年)→0.6012(10年)→0.6035(11年)→0.6041(12年)と毎年上がっているにもかかわらず、MENA 諸国の平均順位が上がらないのは、その改善ペースが世界の平均以下にとどまっていることを示している。

5年間の国別の世界順位の変化を見ると殆どの国は停滞もしくは後退している。たとえば MENA トップのイスラエルの世界順位は08年の56位が09年に45位まで上がったものの10年52位、11年55位、12年56位と5年前の水準に逆戻りしている。またクウェイトは08年の101位から12年の109位へと順位が落ち続けている。カタールの場合、119位(08年)→125位(09年)→117位(10年)→111位(11年)→115位(12年)と毎年アップダウンを繰り返している。同国はモーザ王妃の活躍ぶりが外国でも大きく報道されているが、女性全体の地位向上について西欧の評価はまだかなり厳しいものがある。

ちなみに男女格差が世界で最も小さいのはノルウェー(08年)、アイスランド(09年～12年)といずれも北欧諸国である。日本は2008年の98位から2009年には75位にランクが上がったものの2010年以降は94位→98位→101位と年々悪化しついに世界100位以下に転落している。なお米国と中国の順位の推移は、それぞれ27位→31位→19位→17位→22位および57位→60位→61位→61位→69位であり、いずれも日本にくらべ極めて高いランクを維持している。日本の男女格差は世界の標準よりもかなり下回っているのである。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601  
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642  
E-mail; [maeda1@jcom.home.ne.jp](mailto:maeda1@jcom.home.ne.jp)